

令和元年度第3回 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 会議概要

■日 時 令和元年12月25日（水） 午後3：00～3：50

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者（敬称略）

委員：林 大樹、秋山 滋雄、岡本 和子、長谷川 浩司、熊手 正浩、武内 敬之、
川野 和寿、左 裕美子

欠席者：永沢 映、鈴木 篤志

事務局：佐藤 慎也（総務部長）、有里 友希（総務部政策企画室長）

島田 雅也（政策企画室長補佐）、森本 悠理（政策企画室主事）

■次 第

1. 開会

2. 議題

（1）蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略改定に対する意見について

（2）その他

3. 閉会

■内 容

【開会】

【議題】

（1）蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定に対する意見について

事務局より配付資料について説明。

会 長：説明があったとおり、第1回・第2回の意見を詳細に取り上げて、6つの基本目標ごとに整理したうえで、同日に行われてきた「蕨市行政改革プラン策定に係る市民懇談会」で出た意見も取り入れて意見書（案）を作成している。本日は最終案を確認し、修正・追加の意見をいただきたい。

委 員：各委員の意見を集約して上手くまとまっていると思う。

【基本目標Ⅰ 安全で安心して暮らせるまち】に「避難情報の伝達」とあるが、災害時にテレビを見ても蕨についての情報は少ないため、蕨ケーブルテレビ

ジョンと行政が一体となり、災害時に蕨の情報はウイंकチャンネルを見れば分かるというように、情報を発信することが猶予なしで必要と感じる。具体的な連携の取り組みは進んでいるのか。

(注：現在のところウイंकチャンネルでは、防災行政無線で流した情報が表示される仕組みとなっている。)

事務局：台風19号以来、災害時の情報伝達をはじめ応急対策に力を入れる必要があることは認識しており、庁内で検討を進めている。意見として受け止めてまいりたい。

委員：地域のテレビとして、住民にとってより分かりやすく詳しい情報を発信してもらうことが大切だと思う。ぜひ、今後連携の取り組みを具体的に進めていただきたい。

委員：事務局によくまとめていただいた。各委員の意見を上手に集約している。本意見書をベースにして、来年度以降の施策を進めてほしい。

委員：事務局案で結構である。

委員：よくまとめていただいている。前回の会議以降、更に市内の空き店舗の数が増え、駅前の空洞化が進んでいるように感じている。ぜひ活性化のための具体的な取り組みにつなげてほしい。

委員：全体的にまとまっていると思うが、【基本目標Ⅳ にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち】に関連して、空き店舗の増加により、駅前が暗くなっているように感じる。商店街においては空き店舗対策でセミナーを開くとともに、飲食店が合同で屋台村を展開するなどのアイデアも考えているようである。金融機関として、商工会議所には情報提供を行っているが、協定の締結までいかなくても、金融機関と連携して、まち全体の活性化により、市内にお金が落ちればよいと思う。

委員：【基本目標Ⅱ 豊かな個性を育み子どもたちの未来輝くまち】において、英語検定への取り組みが含まれていることに疑問がある。英語検定は民間事業者が実施している試験である。学校教育においては、英語の教科書が存在するため、英語検定の受験は、各生徒が個人で取り組むことではないのか。

委員：前回の会議で、戸田市が英語検定の受験費用を助成しているので、蕨市においても同様に経済的支援ができればよいという意見を出した。

委員：公共性という観点から、一民間事業者の検定にどのような対応ができるかについて、事務局の見解がないまま意見書(案)に掲載されているが、どう考えるか。

事務局：皆様のご意見を取りまとめて意見書を作成しているが、実現性を懸念されての発言であれば、英語検定受験の支援については、市長の公約に掲げられている。

- 委員：会議としての意見については、市長の意向と切り離して考えたい。事務局は委員の意見をそのまま載せるのではなく、施策に対する考えを持ったうえで慎重にまとめてほしい。
- 事務局：事務局としては、皆さんの意見をなるべくフラットに扱い整理している。
- 会長：英語検定は、一民間事業者の取り組みにすぎないので、より広い範囲を示す表現に修正してもよいのではないか。
- 委員：「英語教育」はどうか。
- 委員：英語検定試験の導入に関する世情を鑑みて、あくまで一つの取り組みにすぎない「英語検定」という表現は使わないほうがよいと思う。
- 事務局：ご提案のようなもう少し広い意味で捉えられる表現を検討したい。
- 委員：英語教育に対する財政支援を市が強化することで、様々な家庭により教育が広がってほしいと思って意見を述べた。上手くまとめていただきたい。
この会議に参加して、様々な方々が様々な思いで蕨市に対して活動していることを知れてよかった。意見を基に具体的・現実的な施策にしてもらいたい。
- 会長：にぎわいづくりに関して他に意見はないか。
- 委員：空き店舗を活用して、10月にWARABI SELECT SHOPを駅前にサブリース形式でオープンするなど重点的に取り組んでいる。空き店舗実態調査も順次進めているが、近隣に尋ねても物件の所有者が分からない事態に直面している。納税情報を行政は持っているので、市の担当課と連携できれば進展できるという思いはある。
- 委員：駅前のレストランが閉店し、空き店舗となっている物件があるが、駅西口再開発事業を控えるため、入居する人はなかなかいないようである。蕨の顔なので、にぎわいが失われるのは寂しい。
- 事務局：金融機関との連携については、基本目標4の最後に入れた方がよいか。
- 委員：金融機関も地方創生には注目している。にぎわいを創出するまちづくりにおいて、参入の判断は別として、そのチャンスがあることは望ましいので、商工会議所、市、金融機関との連携について追記してよいと思う。
- 委員：連携によるまちづくりに反対はしないが、一方的に民間に役割を強いるのではなく、市が責任をもって、役割分担を明確にして取り組みを先導していただきたい。
- 委員：市と金融機関・商工会議所が連携する具体的なイメージがわからないが、何をするのか。
- 委員：空き店舗の解消にあたって、オーナーとの調整は商工会議所が、出店者の企業情報の提供は金融機関が行える。行政においては、地元企業が移転する際や2号店・3号店を出す際に権利関係の情報を提供いただけるとたいへん助かる。個人情報への制約があるので難しいことは承知している。

- 委員：市の存在は大きいので、取り組みを先導してもらっただけでも、大きく進展すると思う。
- 委員：市の信用力は絶対なので、相続関係で貸せない場合や過去のトラブルから直接貸したくないというオーナーも、市や商工会議所が間に入ると貸してくれることがある。いわゆるサブリース形式である。
- 会長：市には仲立ちとなる部署はあるのか。
- 事務局：商工生活室という部署がある。ただし、本来は蕨市にぎわいまちづくり連合会が中心になって担っていく必要があると認識している。
- 会長：空き店舗の活用を奨励する条例を整備することも考えられるのではないか。
- 事務局：中心市街地活性化基本計画に、空き店舗の活用を含めた連携が入っているので計画の推進が後押しにつながると思う。
- 会長：【基本目標Ⅳ にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち】の修正については事務局に一任したい。

(2) その他

- 事務局：修正点を確認したい。まず、英語検定については、英語教育など包括的な表現にする必要があると考えている。また、市・商工会議所・金融機関の連携によるにぎわいづくりの表現についても調整したい。その他、本会議での意見には出なかったが、意見書（案）3ページの【基本目標Ⅵ 一人一人の心でつなぐ笑顔あふれるまち】において、社会貢献とCSRは同義ではないため、（CSR）という表現を削除したいと考えている。
- 今後のスケジュールについては、本日の意見を会長と相談したうえで最終調整して委員の皆さんに確認いただきたい。そのうえで、意見書を1月中に市長に提出、2月中には計画案のパブリック・コメントを行いたい。連絡事項としては以上となる。
- 事務局：お忙しい中、7月から計3回の会議に参加のうえ、貴重な意見をいただき感謝申し上げます。意見書を担当課においても確認のうえ、施策に反映してしっかりとした数値目標を持って実行することが大事と考えている。本日をもって本会議は終了とする。

以上